

ランチェスター法則による、

弱者必勝の経営戦略

正しく見える間違ったやり方が、あなたの努力をムダにしている

1. 経営のやり方には全く違った2種類の 방법이

1番目の方法は、一定の条件を満たした1位の会社だけが使えるやり方で、これを「強者の戦略」と呼んでいます。

2番目の方法は、2位を含め、特別な条件を満たしていない会社を使うべき全社的なやり方で、これを「弱者の戦略」と呼んでおり、2つの内容は全く逆さまのアベコベになっています。

強者の戦略が使えるのは「0.5%」しかなく、残り「99.5%」は弱者の戦略で経営しなければなりません。さらにこの中の下位6割は、競争条件が「特別不利な会社」になりますから弱者の戦略をしっかりと研究し、弱者の戦略の実力を高めないと業績は良くならないのです。

2. 強者の戦略が正しいやり方とされている

ところが本や講演で説明される内容のほとんどは、大会社の組織作りと強者の戦略が中心になっています。特に学歴が良く、大会社にいてコンサルタントになった人は、大会社の、しかも強者の戦略ばかりを話します。

これが原因で従業員100人以下の社長でも、大会社の組織作りと、強者の戦略が正しい経営のやり方であると強く信じ込んでしまいます。

こうなると、本来は弱者の戦略で経営すべき人でも、つい強者の戦略で経営してしまいます。

中には「弱者」という言葉が気に入らないと、クレームをつける人さえいるのです。ところがこれが大問題なのです。



ランチェスター経営(株) 竹田 陽一

TEL 092-781-6122 FAX 092-781-6001

3. 従業員1人当たり50~200万円の損が出る

それはこうなると、根本的に間違ったやり方を全員で実行することになるので、経営効率がひどく悪くなり、従業員1人当たりの年間粗利益が「50万円~200万円」も少なくなってしまうからです。

仮に従業員が20人いれば、1年の粗利益が1,000万円~2,000万円も少なくなってしまう、この状態が10年続くと、なんと1億円~2億円もの損失になってしまいます。これが原因で毎年多くの社長が失敗しています。

これを「正しく見える間違ったやり方」と呼んでいます。もちろん弱者の戦略に切り換えれば、このロスはずっとプラスに変わります。

4. もう一度挑戦してみませんか

講演で各地を回っていると「以前ランチェスター戦略の本を読んだが難しく、そのままになっている」とか「ランチェスター戦略をマスターしたいと思って講演会に何回か参加したが難しく、応用するまでになっていない」という人と少なからず出会います。

こういう人のために4ヶ月かけて制作したのが、このビデオとDVD-Rです。難しいものを解かりやすくするためにいくつもの工夫を加えていますから、すぐ理解が得られます。

ランチェスター戦略を完全にマスターし、業績を良くしたいという社長には最適な教材です。積極的な決心を待っています。

